

ゆうこう道政便り

発行:北口雄幸事務所  
士別市東3条北7丁目  
Tel0165-22-3100  
fax0165-23-4356

ふるさと  
今年こそ元気な郷土に

輝かしい新年を心よりお喜び申し上げます。

謹賀新年



新年、  
明けまし  
ておめで  
とござ

います。輝かしい新年をお  
迎えることと、心よりお喜  
び申し上げます。

さて、昨年は大変お世話  
になりました。特に、道議  
選挙では多くの皆様のご  
支援をいただき、最高得票  
で当選を果たさせていただきました。



「北口ゆうこう道議と語  
る新春の集い」のご案内

輝かしい新年を迎え、いかが  
お過ごしでしょうか。

さて、「北口道議と語る新春  
の集い」を下記のとおり計画い  
たしました。多くの皆様のご  
参加をお待ちしています。

とき：2月1日(金)18時～

ところ：士別グランドホテル

会費：2,500円

主催：北口雄幸士別市後援会

【会券のお求め先】

北口事務所(東3条北7丁目)

電話 0165-22-3100

FAX0165-23-4356

くことができました。

私は、皆さんからお寄せ  
いただいたご支援にお応え  
するため、一所懸命活動を  
してきました。しかし、長  
引く景気低迷で、北海道と  
りわけ上川管内は依然とし  
て厳しい状況です。さらに、  
品目横断的経営安定対策や

石油製品の高騰により、道  
民生活はさらに厳しくなっ  
ています。これらに対する  
新たな対策も早急に行わな  
ければなりません。

今年こそ、皆さまにとつ  
てより良い一年となります  
ようご祈念申し上げ、変わ  
らぬご支援をお願いし、年  
頭に当たってのご挨拶とさ  
せていただきます。

北海道議会議員 北口雄幸

格差から共生社会へ

新年明けましておめでと  
うございます。



昨年いま  
さに選挙イ  
ヤーで、多  
くの皆さま

にお力をいただきました。  
皆さんの期待にしっかりと応  
え得る、政策実現のため一  
層地域活動を強めて参りま  
す。

地域経済は依然模索状態  
が続いています。「構造改  
革」は、地方や生活の格差  
を広げ、命や教育という生  
活権を危うくしています。

また、今日の省庁の不祥  
事は目に余ります。防衛省  
の施設調達疑惑、社保庁、  
厚労省の肝炎問題、農水省  
関連団体の緑機構問題等々  
政権を変えることによつ  
て浄化し、情報を共有する  
社会を創っていかなければ  
なりません。

私は衆議院議員として、  
法律は誰のためか、制度は  
対象となる人々の立場に立  
っているだろうか、自問  
しながら論議・行動をして  
きました。

政治は『現場』であり『生  
活』であり『ふるさと』で  
なければならぬと、新た  
めて決意しています。

衆議院議員 わたせ隆博

第四回定例道議会報告(11月28日、12月12日)

平成19年第4回定例道議会は、11月28日に、会期を12月12日までの15日間と決め、開会しました。

今定例議会では、行財政改革の取り組み、新年度予算編成への対処、支庁制度見直し、市町村財政への支援、

地域医療対策など、多くの課題を議論しました。

民主党・道民連合は、代表格質問に小谷每彦議員(北見市)が登壇、一般質問では、長尾信秀議員(北斗市)、蝦名清悦議員(札幌

市北区)、岡田篤議員(釧路支庁)、三津丈夫議員(帯広市)の4議員が、当面する道政課題や地域課題など、道の取り組み状況について質問しました。

福祉灯油の補助増額を

石油製品の高騰により、灯油の価格は100円に迫り、道民生活とりわけ、高齢者や障がい者、母子世帯などの世帯を直撃しています。

北口道議は、多くの市町村が実勢価格に応じて福祉灯



福祉灯油の補助金増額を質問する北口道議(12月11日)

表1 現行の福祉灯油補助金上限額

人口規模	上限補助金
1万人未満	500千円
1万人以上3万人未満	600千円
3万人以上5万人未満	700千円
5万人以上10万人未満	800千円
10万人以上	1,000千円

油を支給している実態を踏まえ、市町村に対する道の補助基準(表1のとおり)は定額となっており、実勢価格が反映されていない仕組みとなっております。

このことから、市町村が行う補助金の増額を求める質問を12月11日の総合企画委員会で行いました。

質問に対し道は、「今後、

市町村における取り組み状況について、早急に調査するとともに、原油価格高騰を受けた国の緊急対策の動向を見極めるなどして、見直しの必要性について検討したい」との答弁を引き出しましたが、具体的回答を

引き出すまで、ねばり強く追求していきます。

知事宛に要望書提出

また、北口道議は、12月12日、民主党第6区総支部の副代表として、福祉灯油の補助金増額に対する要望書を高橋知事(山本副知事代理)あてに提出しました。



山本副知事に要望書を提出する北口道議

補正で3兆5千億円に

可決された補正予算は、一般会計で55億5900万円補正し、19年度の予算総額は、一般会計2兆9216億円、特別会計5917億円の合計3兆5133億円となりました。

補正の内容は、知的クラス

ター創世事業費として1千400万円、バイオエタノール活用普及促進事業費として1億600万円、保健福祉関係の義務的経費の増として34億3800万円、道単独投資事業費として、23億3600万円が可決しました。

採択された意見書

地方税財源の充実・強化を求める意見書  
平成20年度診療報酬改正に向けての意見書  
医療における控除対象外消費税の解消を求める意見書  
HACCP手法の導入促進を求める意見書  
私立専修学校に対する財源措置に関する意見書  
いじめ・不登校対策のための施策の充実を求める意見書  
地域の安全・安心まちづくりに関する意見書  
石油製品の安定供給の確保と価格の安定を求める意見書

写真で振り返る北口道議の活動記録(10月~12月)



士別青年会議所が企画した水郷公園再開発プロジェクト(左から相山副市長・北口道議・牧野市議・菅原さん10/20)



総合企画委員会で新しい総合計画案の集中審議で質問する北口道議(10/11)



上川北部自治体議員懇話会(10/27) 菊花展(11/2)



瀧上副市長に子育て要望書を提出(11/5)



農業者戸別所得補償法案説明会(11/21)



幌延ア一北海道集会(11/23) 佐々木代議士と国政道政報告会(12/16愛別町にて)



北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kitaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋してご紹介します。(10月~12月分)

10月15日【西岡・サンルダム視察】(前略)西岡

ダムは、以前のブログで基礎式・修葺式の事を紹介したダムで、北海道が事業主体として建設中のダムである。下流の治水と剣淵町への水道水供給を目的として計画され、平成21年度の完成をめざしている。サンルダムは、天塩川水系サンル川・名寄川の治水と名寄



西岡ダムの説明を受ける一行

市・下川町への水道水の供給、水力発電のために建設が計画された。昨年、天塩川流域委員会の議論を経て当初計画が変更され、先の第3回定例道議会で知事の変更計画に対する意見が承認された。すでに、道道の移設工事がほぼ完了し、下流の漁業関係者との話し合いを経て、本体工事が着工され平成25年の完成をめざしている。私は、第3回定例道議会の予算特別委員会に変更計画の内容等について質問している。(後略)。

11月11日【川西町開基百周年記念式典】佐々木隆博

代議士の出身地域である、川西町の開基百周年記念式典及び祝賀会が開催され、私も出席させていただいた。川西町は、明治40年神田広三郎さんを団長とする岐阜団体11戸が移住したことが、開拓の歴史の始まりだといふ。その後、宮城や福島からの入植により百十戸の世帯で川西という地名を付けたとのことである。川



川西町開基100周年記念式典

西町は、その名のとおり天塩川の西地区に位置し、丘陵地帯を切り開いたため、開拓当時の苦労は筆舌に尽くしがたいとのことだ。その魂は、今も引き継がれているのである。(後略)。

12月13日【介助犬の普及を訴え】現在北海道で活躍

する唯一の介助犬「ジルバ」と三上晶代さんが、北海道庁を訪れ、介助犬の普及と障がい者に対する理解、さらには介助犬を育成する訓練施設や認定施設を訴えた。この日は、三上晶代さんのほか、三上さんのお母さん、「ジルバ」を育てたNPO法人ウエルフェアポート湘南の関水俊明理事長、出



介助犬の普及を訴える三上さん(左)

海宏平副理事長と北口雄幸が、高橋教一保健福祉部長と面談した。意見交換の中で、東京へ通って訓練する大変さや介助犬との相性など、介助犬を育成する苦労話をお話しし、高橋部長からはこれから介助犬の普及に努力することを約束いただいた。面談にあたり、少しでも多くの方にこのことを知っていただくと思い、報道関係の皆さんにお知らせしたところ、20人以上の皆さんが取材をしていただき、ジルバもちよつと興奮気味だった。その後、訓練のため地下鉄を利用するとのことだったので、私は道庁でお別れした。これ

からの課題として、北海道にも介助犬を訓練し認定する施設ができ、一人でも多くの障がいを持った方が、地域に出て活動できる日が来ることを願っている。

【ひつらひつら】

昨年(07年)の世相一文は「偽(ぎ)ぎ(偽り)である。これは、ミートホープや白い恋人、赤福など、食品の表示偽装に始まり、日本中が賞味期限や消費期限に揺れた一年でもあった。一方、政治の世界でも公約の偽装が明らかになった。一年間で五千万件の年金を照合すると選挙で約束をしたにもかかわらず、「公約違反」というような大げさなことではないのではないかと、公約違反を公然と言った福田総理。農家の担い手のための制度として導入した品目横断的経営安定対策。さて、本当に担い手の皆さんのための制度なのか。年末を迎え、農家の皆さんの悲鳴が聞こえてくるのはなぜだろう。きつと、今年の早い時期に総選挙があるだろう。真の意味で、偽りのない政治を目指し、選択を誤らないようにしよう。(ゆうこう)